



# 町制施行120年を迎え「健やかなまちづくり」の実現に向けて 岩内町



## 岩内町基礎データ

総人口	11,097人 (R5.12末現在)	漁獲高	865百万円 (R3 北海道水産現勢)
高齢人口 (高齢化率)	4,292人 (38.7%) (R5.12末現在)	製造品出荷額	6,411百万円 (R3 経済センサス)
世帯数	6,402世帯 (R5.12末現在)	卸・小売年間販売額	12,590百万円 (R3 経済センサス)
人口密度	157.1人/km <sup>2</sup>	一般会計規模	8,200百万円 (R5 当初予算)
面積	70.63km <sup>2</sup>	町の木	ナナカマド
農業産出額	180百万円 (R3 市町村別農業産出額)	町の花	ハギ

## 岩内町の紹介

岩内町は、北海道の道央圏後志管内の南西部に位置し、北は岩内湾を介して積丹半島、西は日本海、南は岩内岳やニセコ連峰の山並みが連なり、東は共和町と一体的な岩内平野を擁しています。夏は暑い日が続く、冬は強い季節風が吹く日本海沿岸特有の気候で四季の移ろいをしっかりと感じるすることができます。

岩内町の歴史は古く、江戸時代から商人の往来があり、明治33年(1900年)の一級町村制により岩内町が誕生しました。当時はニシン漁全盛期で、漁師町として賑わいを見せていましたが、昭和29年(1954年)に発生した台風15号(洞爺丸台風)時に出火した「岩内大火」により、町の8割以上の3,300戸を焼失、死者35名、罹災者16,000人余りの大災害となりました。道内有数の賑わいを見せた町並みは一夜にして変わり果ててしまいましたが、後に「岩内魂」といわれる先人達の不断の努力と多くの支援により短期間のうちに驚異的な復興を遂げ、再び活気のある町に生まれ変わりました。

## 新たな地域ブランドづくり

北海道内で古い歴史を持つ岩内町。かつてニシン漁やスケトウダラ漁で隆盛を誇った港町も、漁業の衰退を契機に人口減少や少子高齢化などで大きな岐路に立たされています。

そうした流れを変えようと、「食と観光」を地域活性化のポイントに掲げ、海とともに

歩み歴史的エピソードも豊富なこの町にふさわしい特産物づくりを目指すわが町の取り組みをご紹介します。

### ①「野生ホップ発見の地」ならではのクラフトビールづくり

岩内町は、明治4年(1871年)に地質調査で訪れた外国人技師トーマス・アンチセルによって野生ホップが初めて発見され、北海道におけるビール醸造のきっかけとなった地です\*。

町では、この歴史的背景を価値に変えようと令和3年(2021年)から地元農家の協力を得てホップの試験栽培に取り組み、翌年には地元企業によるクラフトビール醸造所「イワナイブルワリー&ホテル」が開業。「野生ホップ



岩内産ホップ

\*野生ホップ発見から5年後の明治9年(1876年)、札幌に「開拓使麦酒醸造所」(のちのサッポロビール)が誕生し、北海道のビール造りが始まりました(本誌冒頭「巻頭言」参照)。

プ発見の地」でのホップ栽培とクラフトビール醸造という2つの夢が実現しました。

## ②「アスパラガス発祥の地」でホワイトアスパラガス栽培

また岩内町は、大正11年（1922年）に地元出身の農学博士下田喜久三が日本で初めてアスパラガス栽培に成功した地でもあります。当時はホワイトアスパラガスの栽培が盛んに行われ、アスパラガスの缶詰工場も操業していましたが、その後全国各地で大規模生産が始まると地元での栽培は姿を消してしまいました。この発祥の歴史を活かそうと、町では令和3年（2021年）にホワイトアスパラガスの試験栽培に従事する担い手を募集。現在、東京から着任した地域おこし協力隊員の青年が、地元農家のサポートを受け発祥の地で作付けしたホワイトアスパラガスの初収穫に向け着々と準備を進めています。

## ③岩内の酒米と2つの仕込み水で「新たな地酒」づくり

試験栽培といえはもう1つ、岩内町にはかつて6軒の造り酒屋があったほど盛んに酒造りが行われていました。これに着目し、町では令和3年（2021年）から地元農家の協力を得て酒造好適米「彗星」の栽培に取り組み、3年にわたる試験醸造を経て、岩内岳の伏流水で仕込む純米大吟醸「山」と、岩内沖から取水する海洋深層水（脱塩水）で仕込む純米吟醸「海」という2種類の日本酒が誕生しました。いずれも山の幸・海の幸に馴染むすっきりとした味わいに仕上がりに、岩内の新たな地酒として地元酒店などで販売されています。



日本酒「山と海」

## ④初代町長の庭園「含翠園（がんすいえん）」の復元

また岩内町には、初代町長梅沢六兵衛が明治30年（1897年）頃から大正2年（1913年）

までの15年の歳月と当時25万円（現在の価値で2億5千万円）という巨費を投じて造園した3,000坪の庭園「含翠園」があります。

この庭園は、書院造りの茶屋をはじめ、築山、造池、飛石、庭石、松、梅、桜、タモ、ツツジなどを巧みに配し、梅沢家造園以来、永く町民に開放され親しまれてきました。

町では、歳月を重ね由緒ある景色を失っていたこの歴史的文化財産を、往時の姿に復元し観光名所や町民の憩いの場として活用しようとして令和3年（2021年）から庭園の改修工事に着手。桜が見頃を迎える5月のオープンを目指し、準備が進められています。



含翠園

## ⑤岩内の自然の中で育てる「トラウトサーモン」

また岩内の新たな産業として定着を目指す「トラウトサーモン養殖」についてご紹介します。

トラウトサーモン養殖との出会いは、青森県深浦町（姉妹都市）との縁で同町などで大規模な養殖事業を展開する水産養殖国内大手企業と令和3年（2021年）2月に包括連携協定を締結したことに始まります。以来、岩内におけるトラウトサーモン養殖の可能性を探るため、海洋深層水での蓄養試験や岩内港内



トラウトサーモン養殖風景

での海面養殖実証試験などに取り組み、現在は岩内の自然条件と岩内岳の伏流水を活用した孵化・幼魚養殖の実現に向け、再エネを活用した陸上中間養殖実証試験施設の整備を進めています。

今年も順調に育てば、海面養殖の水揚げ時期を迎える6月頃には地元寿司店などで新鮮な岩内サーモンの握りや刺身をご提供できますので、地酒「山」「海」やクラフトビールとともにぜひ岩内町の地域ブランドをお楽しみください。

## 日本海を彷彿させる豪快なお祭り

長い歴史を有する港町にふさわしく、夏には伝統あるお祭りが彩りを添えます。7月初旬の3日間にわたる「岩内神社例大祭」では、猿田彦命と宇豆女命に先導された神輿渡御が町内を練り歩き、クライマックスには急坂を一気に駆け上がります。神輿渡御に続く「赤坂奴」は、町の無形文化財に指定され、威勢の良い掛け声とともに毛槍を投げ合う迫力ある演舞を間近でみるすることができます。期間中は100店以上の露店が立ち並び、多くの家族連れや子ども達で賑わいを見せる様子は、夏の風物詩になっています。

また8月に開催される「怒濤まつり」では、5,000発の花火が夏の夜空を飾り、去年は第50回の節目を迎え、多くの観光客が訪れました。

## 日本夜景遺産を楽しめる観光資源

積丹半島を一望できる「岩内岳」円山地区の「オートキャンプ場マリンビュー」は、シーズン中、多くのキャンプ愛好家で賑わい、キャンプ場に程近い円山展望台から望む夜景は平成30年(2018年)に日本夜景遺産に認定され「北海道四大夜景」の一つに数えられています。

またオーシャンビューを楽しめるスキー場「IWANAI RESORT」では、スノーキャットと呼ばれる圧雪車で頂上付近まで登り、手つかずのパウダースノーを体験できるツアーが人気となっています。

いわない温泉は、ニセコ山系から湧き出す炭酸水素塩泉による「美肌の湯」と、海水由来の高濃度ミネラル分を含む塩化物泉による「癒やしの湯」の2つの泉質を楽しめます。また温泉旅館が趣向を凝らし、地ビールの開発や8月の「宿の日」に花火を打ち上げるイ

ベントなどが評価され、昨年開催された温泉総選挙2023で総務大臣賞を受賞しました。

## 貴重な文化遺産とともに次代へ

岩内町には、芸術や文化の面でも数々の見所があり、生涯、岩内の自然を描き続けた画家木田金次郎の「木田金次郎美術館」では、毎年企画展を開催しています。その他、「岩内町郷土館」には町の歴史をたどる貴重な資料を展示しています。

## 施設一体型義務教育学校の整備

時代が大きく変化する中、今、求められている岩内町の教育を今後も持続可能なものとしていくため、令和5年(2023年)より4つの小中学校を統合した「義務教育学校」の建設工事が始まっています。学校名は「岩内中央学園」で、令和8年(2026年)度開校時の児童生徒数は592名を見込んでおり、一人の校長のもと全教職員の連携による長期的視点に立ったきめ細やかな指導が可能となります。未来を担う子どもたちが安全・安心な環境の下で健やかに成長できる教育環境を整備しています。



義務教育学校「岩内中央学園」イメージ図

## 持続可能なまちづくりに向けて

現在、岩内町では、長期的な居住・都市機能の集積方針となる「立地適正化計画」を始め、「産業振興プラン」「健康寿命延伸プラン」「ゼロカーボンビジョン」などの各種計画を策定中です。これからも全ての町民がこの岩内町で健やかな生活が送れ、若い方々が夢や希望を持てる町づくりを目指していきます。

# 岩内町の四季



【春】岩内神社通りの桜



【夏】岩内神社例大祭



【秋】秋のオートキャンプ場「マリンビュー」



【冬】IWANAI RESORT